

令和6年度 大阪市立松虫中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和6年度 大阪市立松虫中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
実施月日			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	84	54	50	2.8	8.7
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
実施月日			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	91	60.3	49.5	48.5	56.4	53.0	5.0	4.0	11.3	2.6	5.2
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	53.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.3	6.5
9月3日	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.4	53.6	5.3	5.0	14.8	5.0	6.9
2 年	学校	69	67.0	53.5	52.3	52.8	57.8	9.0	3.1	8.2	4.7	6.5
	大阪市	—	66.1	49.9	51.4	49.5	54.6	8.4	4.6	8.2	6.1	7.0
1月9日	大阪府	—	65.5	49.5	50.7	47.2	54.0	9.3	5.2	9.5	7.4	7.9
1 年	学校	74	65.2	52.0	54.1	56.3	63.1	7.4	5.8	4.8	2.5	3.5
	大阪市	—	59.0	53.7	50.5	55.6	62.1	8.3	5.5	7.4	3.8	4.9
1月9日	大阪府	—	58.5	—	49.8	—	61.5	9.4	—	8.8	—	5.8

- ※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施
 ※ 1年生の理科は化学的領域を選択
 ※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択
 ※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】 (スコア)	聞くこと 【リスニング】 (スコア)	書くこと 【ライティング】 (スコア)	話すこと 【スピーキング】 (スコア)
実施月日						
3 年	学校	89	107.8	102.1	163.1	105.0
	大阪市	—	105.7	104.6	149.6	102.1

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトル ラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
2 年 男 子	学校	28.89	25.67	39.79	51.64	68.29		8.70	190.89	16.74	37.52
	大阪市	28.38	26.42	42.74	51.50	79.76		8.08	194.64	19.84	41.10
	全 国	28.95	25.94	44.47	51.51	78.98		7.99	197.18	20.57	41.86
2 年 女 子	学校	21.34	21.47	38.91	44.36	50.24		9.68	153.59	10.09	40.03
	大阪市	22.99	22.21	45.64	45.86	52.98		9.01	167.01	12.04	47.51
	全 国	23.18	21.56	46.47	45.65	50.67		8.96	166.32	12.40	47.37

令和6年度 大阪市立松虫中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

中学生チャレンジテスト(1年生)

＜国語＞

【成果と課題】

平均正答率について、6.7ポイント上回った。記述式の自分の考えを書く作文形式の問題では無答率が、府平均を上回る結果になった。

【今後に向けて】

作文など、生徒が自分の実態を把握して、自ら進んで課題に取り組む形式にしたが、生徒によって課題達成率に差があった。達成率の低い生徒へのアプローチを強化する。

＜社会＞

【成果と課題】

平均正答率について、市平均1.7ポイント下回った。記述式の問題では、市平均を1ポイント上回ることができているが、選択式・短答式の問題については市平均を下回る結果となった。

【今後に向けて】

語句テストをこまめに行い、語句を覚える機会をこれまで以上に与えて得点力アップを目指す。

＜数学＞

【成果と課題】

府平均より4.3ポイント上回り、領域等別の平均も評価の観点別平均についてもすべて上回った。しかし、計算問題が複数問、府平均を下回った。基本的な計算力に課題がある。

【今後に向けて】

授業で取り組む基本的な計算問題の問題数を増やし、繰り返し練習させる。

＜理科＞

【成果と課題】

平均正答率は市平均を超えてはいるが、度数分布から中間層がやや低正答率に寄っているため、基礎学力の向上が今後の課題である。

【今後に向けて】

動物・植物の分類、化学分野に得点が低い項目が見られるので、復習をしていく予定である。

＜英語＞

【成果と課題】

全体的には府平均より1.6ポイント上回った。特に読むことの領域では3.6ポイント上回ることができた。しかし、記述式の問題で府平均を0.8ポイント下回った。書く力が十分に定着していないことがわかった。

【今後に向けて】

毎時間課題となる文を1～3文もうけ、タブレットを用いてテストをする予定である。

中学生チャレンジテスト(2年生)

＜国語＞

【成果と課題】

府平均と比べ、1.5ポイント高い。しかし、記述式の問題の正答率が府平均を0.2ポイント下回った。知識・技能の観点の問題では府平均を1.7ポイント上回ったので引き続き基本的な語句の知識や漢字の力を上げることが必要である。

【今後に向けて】

協同的な学習をベースに、基本的な語句の力を高めながら読解力を高め、記述式問題に対応できる力を育てる。

＜社会＞

【成果と課題】

平均点が市平均より4.0ポイント高い。しかし、記述式の正答率が低いため小テストなどで記述式の問題に対応する力を養う必要がある。

【今後に向けて】

春休みの課題や3年生になってからの授業で復習を行い、問題に対応する力を育てる。

＜数学＞

【成果と課題】

平均点が府平均1.6ポイント高い。しかし、思考・判断・表現が府平均を下回っているため、知識だけでなく、思考力を養っていく必要がある。

【今後に向けて】

授業の中で考える時間を増やしたり、様々な解法を紹介したりして、問題解決を1つの知識に頼るのではなく、様々な角度から解決する力をつけていく。

＜理科＞

【成果と課題】

平均点は市平均より5.6ポイント高い。しかし、化学反応式など、化学分野に弱い項目が多く、3年生に向けて復習をする必要がある。

【今後に向けて】

春休みから3年生の最初にかけて、もう一度今まだ学習したことへの復習問題を練習させていく。

＜英語＞

【成果と課題】

府平均よりも3.8ポイント高かった。しかし、思考・判断・表現の問題の正答率が0.3ポイント下回った。場面や状況に応じた回答や、理由を問われた問いの定着ができていない。

【今後に向けて】

場面に応じた対話の問題や、理由を考えて書く問題を單元ごとに取り組ませたい。